ルーテル学院大学
日本ルーテル神学校
後援会 News
（144）
2021年12月1日
発行
ルーテル学院大学
日本ルーテル神学校
後援会
編集
推進委員会
http://www.luther.ac.jp/
〒181-0015
東京都三鷹市大沢3-10-20
TEL:0422-31-4611
FAX:0422-33-6405

ルカによる福音書二章七節
初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた

日本ルーテル教団
新発田ルーテル・キリスト教会
牧師　中川　祐子

生まれたばかりの赤ちゃんイエス様が、大切に布にくるまれて飼い葉桶で寝ている。そばで慈しみ見守るマリアとヨセフ。クリスマスに思い描く、救い主誕生の光景です。

なぜ、こんな時に人口調査なのでしょう。ベツレヘムまで、臨月の身には厳しく危険な旅でした。それでも命令に逆らう術はありません。折り悪く旅先で産気づくマリアに、ヨセフはどれだけ焦ったことかと想像します。町は同様の旅人であふれ、先に宿を取った人たちでどこも満室です。がっかりして、仕方なく不潔な家畜小屋に向かい、そこで救い主は産声を上げる―そんな暗く、寂しく、惨めなイエス様の誕生であったでしょうか。

こうも考えるのです。身重でありながらベツレヘムに無事到着し、それから出産の時が訪れました。家畜小屋とは予想外でしたが、家族だけで休める場所が空けられていました。そこは動物の体温で暖かかったかもしれません。初めての出産の手伝いもなくマリアは健やかに子を産み、赤ちゃんを大切にくるむ布がありました。何もないと思ったら、ベビーベッドに丁度よい飼い葉桶までも。どちらも急場しのぎの物でありましょう。そんな布と飼い葉桶が救い主のしるしとして語られるとは驚きです。救い主をお迎えする場所は神様が備えられていました。

準備は何もできていません。しばしば困ったり、焦ったりもします。でもイエス様、いつでも私の心においでください。

今年の教団総会で女性の牧師職が正式に認可されました。ミズーリシノッドは、自分たちの伝統に反すると、これに遺憾を表明しています。かつて宣教師の先生方は、羊飼いたちのようにクリスマスの喜びを日本の私たちに知らせてくださいました。感謝とともに、私もその信仰の伝統を受け渡していく一人でありたいと思います。

オンライン 一日神学校に参加して

日本福音ルーテル
シオン教会　平岡　博

静かな大学チャペルの映像とパイプオルガンの前奏を聴きながら二年前に中国・四国地区としてご招待いただいた一日神学校のことを思い浮かべました。緑豊かなキャンパスで、学生時代に戻った気分で講義を受けたあの日。懐かしい先生や友人たちと顔を合わせて挨拶しあう喜びをかみしめていました。

「聖霊の助けにより、キリストの働きの中に入れられている。その手には主の働きが宿っている」と、石居学長のメッセージが開会礼拝で語られました。

前半は「ルーテルの総合人間学とは何か?～共生の羅針盤を求めて～」というテーマについてのシンポジウムが、臨床心理学、社会福祉学、キリスト教学の三分野の石川先生、浅野先生、宮本先生によって開かれました。本学では「神に出会い隣人とともに生きる人間学に基づいた教育」が行われている。「あらゆる人々に手を差し伸べたキリストの手」として、総合人間学を学んだ学生たちが、社会に巣立っていく。大きな志が、ルーテル学院大学総合人間学部に宿っているのだと感銘を受けました。

後半は神学生によるキャンパス紹介で、先生方のメッセージとともに、学びの場を拝見しました。河田チャプレンと神学生による力作のビデオ映像に感謝、感謝。七名に増えた神学生による自己紹介もあり、より身近な大学・神学校を実感しました。YouTube配信により、パイプオルガン・ハンドベル演奏、神学生による賛美歌合唱などどれも素晴らしく印象に残りました。

終了後のZoom懇談会では、この感動をぜひ冊子にしてSNSが使えない世代のために届けて欲しい、来年は大学での一日神学校と並行してオンライン配信し、遠隔地の修養会と合わせて行うのはどうか? など様々の意見がありました。立山校長は神学一般コースは牧師養成を目的としていないが、牧師養成コースに進む道もあることを紹介されました。

コロナ禍で途切れたかに見えたつながりを取り戻す。地方にいてもつながることができる。主の御業のすばらしさを感じた一日でした。関係者のみなさまに深く感謝申し上げます。

私たちが応援しているルーテル学院生

今年度の後援会行事でスピーチをしてくれた学生たちを紹介します!

斉田理緒（さいだりお）さん（福祉相談援助コース3年）は、ルーテル学院直属ハンドベルサークルであるラウス・アンジェリカのメンバーであり、中心的な役割を担っています。昨年と今年はコロナ禍で活動が制限される中、演奏を収録したDVDを作成したり、動画配信で新入生に入部を呼び掛けたり、積極的な活動を続けました。現在は、一人一人の心に寄り添うソーシャルワーカーを目指して熱心に勉強を続けています。将来は教室や学生活動で学んだことを糧に、社会福祉の現場で活躍することでしょう。

浅野陽（あさのひなた）さん（臨床心理コース4年）は、ルーテル学院に入学してからキリスト教と出会い、日々のチャペル礼拝に通うようになりました。いつも一番乗りでチャペルを訪れ、聖書の言葉に耳を傾けます。普段は物静かで穏やかな性格ではありますが、昨年度は学生会執行部としてインターネットを用いた活動で学生達の気持ちを盛り上げてくれました。話し出すと「陽（ひなた）」の名前の通り、お日様のような笑顔で相手の心をポカポカにしてくれます。卒業後も多くの笑顔を見せてくれるでしょう。

河田礼生（かわたれお）さん（牧師養成コース2年）は立教大学でキリスト教学を修め、神学校に入学しました。しかも牧師三世となりますから、豊かな経験知を持って学びを始めたことになります。神学生以前から中高生キャンプ等のスタッフとしても活躍し、入学後のルター寮での生活ではリーダーとしてのまとめ役を担ってくれています。学業にも意欲的に取り組み、優秀な成績を修めています。「賜物には色々ありますが」というパウロの言葉がありますが、自身の賜物を磨いて、研鑽をさらに深めてくれることを期待しています。

三浦慎里子（みうらまりこ）さん（牧師養成コース2年）は社会経験（九州ルーテル学院職員）を経て、牧師への道に献身することを決断しました。しかし故郷の親族のお世話をするために、一昨年から一年間休学しなければなりませんでした。今春には復学しましたが、蓄積した疲労からか、夏には自身の体調を壊してしまいました（すでに快復）。学業に真摯に取り組み、優秀な成績を積み上げていますが、神学校に身を置いてからの生きた体験は、自分自身が福音に出会い、それを人々に語って行くためにきっと益するに違いありません。

フレッシュな牧師を迎えて

日本福音ルーテル
小田原教会　岡林　光志

私は京都教会で受洗し、社会人になると同時に、現在在籍している小田原教会に転入して早や五十年以上経ちました。京都教会に較べ小さな群れに驚くとともに、教会員同士や牧師との距離の近さに新鮮さを感じました。

小さい教会ならではの特権でしょうか、多くの新卒の牧師を迎えてきました。平岡仁子牧師、小泉嗣牧師、池谷考史牧師、岡村博雅牧師の方々です。皆さんフレッシュな牧師として牧会をして頂きました。湯河原教会との兼牧というご苦労も多かったと思います。

ここに一つの冊子があります。「宣教五十周年記念誌」という小田原教会の冊子です。二〇〇六年十二月の発行ですから既に十五年近く前になります。小泉牧師のもとで私も編集委員の一員として制作した一三〇ページの冊子です。「召天者への想い」「記念修養会の記録」「将来の夢」などを含めたことが特長でした。当時まだ若かった（といっても六十歳の）私はかなり情熱を注いで制作した記憶があります。この時、若い小泉牧師は精力的に編集指導や写真編集をされ、信徒とともに汗を流して頂きました。特に五十年の歩みを纏めた別冊CDは小泉牧師のアイデアでした。このような作業を通して牧師と信徒との距離が更に近くなったことでした。

小泉牧師が書かれた巻頭言に「今日の自分たちが自分たちのことを知り、学ぶために。明日の自分たちが自分たちのことを知り、学ぶために。」という言葉通りに、時折この冊子を読んでいます。

これは一つのエピソードですが、信徒と共に歩むフレッシュな牧師を養成して頂いた日本ルーテル神学校に感謝しています。先日の一日神学校でお話があった「暮らしの中に生きる信仰と神学」を目指した献身者の養成をこれからもお願いしたいと思います。

私は教会世話人をしています。「貧者の一灯」ですが支援を続けていきたいと思っています。

クリスマスの喜びを大学・神学校へ
今年度募金目標額
2,500万円
※ゆうちょ銀行の料金改定により、2022年1月17日から現金でのご送金には110円の加算料金がかかります。